

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年11月11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100606		
法人名	社会福祉法人 青丘		
事業所名	グループホーム こすもす	ユニット名	
所在地	〒319-0101 茨城県小美玉市橋場美528		
自己評価作成日	平成21年6月30日	評価結果 市町村受理日	平成21年11月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	まだありません
-----------------	---------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年8月18日	評価確定日	平成21年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>一人ひとりが家庭的の雰囲気の中でその人らしく安らかに暮らせるよう、利用者のもつ能力やリズムを大切にしながら支援している。 日々の生活の中で、無理のない役割や出番を提供できるようにしている。 職員は笑顔を忘れないように親しみと安心感を持っていただけるよう心がけている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>運営母体関連の介護施設や医療機関が近くにあり、利用者の体調に変化が生じた場合は介護施設の看護師と連携を図りながら協力医療機関で受診できるよう支援するなど、医療と福祉の連携が良く取れており、利用者が安心して生活している。 管理者は前回の外部評価で改善が期待された事項に真摯に取り組んでいる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を掲げ、生活支援、個人支援を念頭に実践につなげている。	「地域との交流を大切に、家庭的な雰囲気の中で・・・」という地域密着型サービス事業所としての理念を掲げている。 朝礼時に全職員で理念を唱和し共有に努めている。 利用者のできることやできないことを見極め、残存能力を活かした支援をするなど理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアグループを積極的に受け入れたり、散歩中に地域の人々への声掛けや施設の行事等に参加している。	地域のボランティア団体が定期的に事業所に来訪し、傾聴や演芸を通して利用者と交流を図っている。 地域の小学生が事業所を来訪し、学校の田んぼで収穫した米をお裾分けしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	朝のミーティングやケア検討時には必ず話題にし、意識を高めるように全員が理解できるように取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員、民生委員、ケアマネージャー、異職種の構成で概ね2ヶ月に1回開催し、施設の実情や問題点を話し合うとともに新しい行政の情報を得るなど、サービスの質の向上に活かしている。	3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、外部評価結果を報告するとともに出した意見を改善に活かしている。	災害時の地域の協力要請など、更なるサービスの質の向上に向けた運営推進会議の活用が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査を通じて、担当者とのかかわりを大切にし、コミュニケーションを図るように努めている。	施設長が市の介護保険事業計画策定委員を務めるとともに、市担当者と意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1ユニットで少人数であり、職員がきめ細かに注意深く支援している。常に話し合う機会を設け、職員全員に周知徹底を図っている。	身体拘束防止のポスターを掲示するほか、ミーティング等で身体拘束防止について話し合っているが、マニュアル等がないため禁止の対象となる具体的な行為などを職員で共有するまでに至っていない。 利用者が一人で外出した場合は、職員と一緒に寄り添い、落ち着いてから事業所に戻るよう工夫するなど、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止に向けたマニュアルを作成するとともに、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為に関して職員で共有することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連施設と話し合う機会を設け、事業所内での虐待が見過ごされないよう、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性を関係者と話し合い、利用者の人権を脅かさないよう日々の介護に活かし、支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書で理解を頂くまで十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や相談、重要事項説明書に記載している。職員全員で十分に話し合う機会を設け運営に反映させている。	玄関に苦情箱を設置するとともに、重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時や面会時に利用者や家族等に説明している。 持込禁止の物でも、家族等の希望や相談に応じるなど、利用者や家族等の意見を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼で職員の意見や提案を聞く機会を設け、申し送りノートに記録し運営に反映させている。	管理者はミーティングや日々の話し合いで職員の意見や提案を聞き、「申し送りノートにおける重要事項の朱書き」など、職員提案に基づいて申し送りノートの記述方法を変更するなど、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体の病院で、月1回定例会議を実施し、意見や要望など話し合う機会を設け、職員処置への反映や向上を持って働けるような配慮、対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時は2ヶ月間重点的に施設内で指導してから採用を決定し、段階に応じた研修に参加している。日常的に学ぶ機会をつくり、園内研修を実施し経験を積みながら習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	園内研修、勉強会を行うとともに、事例検討を通して、介護技術・サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時から、信頼関係を築いていけるように、本人と必ず面談を行い不安を取り除く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは十分に話し合いを行い、不安や要望など家族の思いを良く聴き理解し、コミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、本人と家族の必要としているサービスにお答えできるよう、他のサービス内容を念頭に入れ対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護とは考えず、安心して安全に楽しく暮らすためにはどのようにしたら良いのか、お互いできることは自分でして頂き、また利用者から教わり支えられている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こすもすだよりを毎月1回郵送し、生活の様子を電話で近況報告し、常に安心していただけるよう配慮し支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりがその人らしく暮らしていけるよう自由な雰囲気をつくり見守りを行い、一人ひとりの暮らしに耳を傾け、気持ちを受け止め生き生き出来ることを見つめていく。	利用者が馴染みとしている理美容室の利用や墓参りの希望があった場合は家族等に連絡するなど、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有の場でのトラブル防止には、特に注意して見守っている。安心できる環境づくりに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気で退所した方は、病院へのお見舞いに行き必要に応じて情報交換を行い、話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを日々の会話の中で把握するように努めている。本人、家族からの思いや希望に添ったサービスをしているか、常に話し合いを行い検討している。	思いや意向を日常会話から把握するとともに、困難な場合は家族等の面会時に話を聴くなどで把握するように努めているが、記録に残すまでには至っていない。	思いや意向の把握がケアの出発点であることを再認識し、一人ひとりの思いや意向を記録し全職員で共有することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりがそれぞれ安心できるような環境を整えている。利用者や家族との日々の会話の中で信頼関係を築きながら、時間をかけ把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、出来ること出来ないことを把握し、毎日の生活の様子や介護記録、申し送りノートに記録することで、総合的な把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がその人らしく暮らすために、課題や出来ること、出来ないことを本人や家族の要望などを聞き満足が得られ、現状に即した介護計画を作成できるよう職員全員で話し合っている。	介護支援専門員と職員が話し合い、家族等の意見を反映した介護計画を作成している。 3ヶ月ごとにモニタリングするとともに、6ヶ月ごとに目標の達成度を評価しているが、モニタリングや評価結果が介護計画の見直しに結びついていないケースがある。	介護計画の見直しはモニタリングや評価結果に基づいて、現状に即した内容で実施することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に生活の様子、食事量、排泄などを記録している。申し送りノートや業務日誌などで情報を共有し、実践や介護計画の見守りに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連施設の看護師との医療連帯や主治医の週に1回の回診、そのときに生まれるニーズに対応して、馴染んだ環境の中で最後まで過ごせるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで日頃より連携を取れるよう働きかけたり、ボランティアの受け入れを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体の病院に週1回の通院のほか、主治医の受診があり医療体制は充実している。病状の変化に即応し、安心して生活できる体制になっている。	協力医療機関の受診を原則としており、利用者や家族等の同意を得て受診支援をしている。 利用者の体調に変化が生じた場合は、同一法人が運営する特別養護老人ホームの看護師と連携を図り、速やかに協力医療機関で受診できるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の外来受診時や関連施設の看護師と共有し、健康管理やケアについての相談を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に面会に訪れるようにし、馴染みの関係を継続できるようにしている。病院関係者との情報交換やアドバイスを受け混乱なく過ごせるよう体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	美野里病院医師と常時連絡できる。相談できる体制が整っている。家族と蜜に情報交換を行い、ホームではこのように協力できることを十分に説明しながら支援に取り組んでいる。	ターミナルケアマニュアルや看取り介護に関する事前調査、看取り介護に関する同意書の書類を整えているが、看取り介護に関する事前調査の実施や同意を得るまでに至っていない。	重度化や終末期のケアの実践に向け利用者や家族等と話し合い、方針を共有して関係者と支援に取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを実行している。職員全員で演習を行い、実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。関連施設とは顔を合わす機会が多くあり、交流も行っている。定期的に話し合う機会を設けている。消防、警察への協力も依頼している。	年2回避難訓練を実施しているが、利用者の耳が遠く動作が遅いなどのことから、全員避難するまでに15分要したなど、訓練で得られた課題を記録するまでには至っていない。 地域の人々や同一法人が運営する近くの関連施設との連携体制を確立するまでには至っていない。	訓練で得られた課題を記録し、改善に向けた取り組みが望まれる。 運営推進会議などを通して災害訓練に地域の人々の参加を呼びかけるとともに、関連施設と緊急時の連絡体制を整備することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならない言葉掛けを心がけ職員間で確認している。毎朝のミーティングやカンファレンス時にも話し合っている。	利用者への命令口調は止めようなど、利用者一人ひとりの人格やプライバシーの尊重について全職員で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の持っている力を引き出せるよう、出来る限りの自立支援を心がけている。掃除や洗濯たたみ、身の回りのことなど、本人が自己決定できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、一人の状態やペースに合わせて柔軟なケアを心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の頻度で移動美容師が訪問し、利用者の希望を取入れた理美容の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	超高齢者が多く転倒のリスクを考慮し、食事の準備は職員が行っているが、食前、食後のテーブル拭きや下膳、味噌汁の味見を利用者が行っている。	主食以外は同一法人の施設から配達されるが、自家菜園で収穫したふきやなすを献立に付け加えるなど工夫をしている。 ふきの皮むきなどの下ごしらえや配膳、下膳など利用者ができる範囲で食事の準備や後片付けを担っている。 2ヶ月に1回利用者の希望にそって外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の栄養士の献立により、味付け、栄養のバランス、必要量を確保している。食事の見守り、確認、量や盛り付けの工夫により、バランスよく摂取できるよう見守っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいの声かけや見守り、義歯の洗浄を定期的に行い習慣づけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握している。可能な限りトイレでの排泄を行うように支援している。	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導するなど自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かす機会をつくり、排泄のリズムを取るよう心がけ、便通のよい食材の工夫や乳製品を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴を実施しているほか希望によりシャワー浴を支援している。骨折等で入浴困難な利用者は隣接施設で機械浴の支援をしている。	週2回の一般浴のほか、機械浴が必要な利用者には、同一法人が運営するデイサービスでの機械浴を利用するなどの支援をしている。入浴回数など利用者の希望にそった入浴を支援するまでには至っていない。	入浴回数や時間帯など利用者の希望にそった入浴支援を職員で話し合うことが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や外気浴など身体を動かす機会をつくり一日のリズムを整え、安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルしており、全職員が内容を把握できるようになっている。服薬時には口の中に入れ確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること出来ないことがあり、できることを自分の役割として行い、個人の力を発揮できる場をつくり、感謝の言葉掛けを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況や天気に応じてお花見や近隣への散歩など、利用者の希望を把握し企画を実施している。	近くの小規模多機能型居宅介護事業所や農園まで週1回程度散歩している。 利用者の希望にそってショッピングモールやホームセンターに出かける支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が自ら支払いすることは困難である。事業所が金銭を管理し、金銭の額や用途に関する相談報告など家族に合意を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの年賀状などを取り次ぎ、電話をかけたい方は職員が取り次いだりして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の要所に手すりを設置し、風呂場には滑り止めマット、トイレには車椅子が出入りしやすいようにドアを外してカーテンで仕切るなど、利用者に配慮した共用空間づくりとなっている。玄関周りに季節の花を植えている。利用者は日中はテレビ鑑賞やちぎり絵をして、楽しみながら心地良く過ごしている。利用者に配慮し、窓を開閉するなど適切に温度管理をしている。	共用空間の一角が畳敷きになっており、利用者がくつろげる場所になっている。 玄関や廊下の所々に観葉植物を設置し、ゆったりとした雰囲気になるよう工夫している。 廊下の端にある男性用トイレとその奥の女性用トイレは、車椅子での利用を考え扉が外されており、女性用トイレはカーテンで仕切られているが、男性用トイレは廊下から見える状態となっている。	家庭的な雰囲気やプライバシー確保という観点で、男性用トイレと廊下との仕切りに関する話し合いを行い、改善することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の横に椅子が置いてあり、食堂、談話室、プレイルームなど自由な交流の場になるよう見守っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓された居室内は低床の介護用ベットや小ぶりのチェストが配置され、家族の写真を馴染みの品を持ち込み心地よく過ごせる支援をしている。	利用者の居室は使い慣れた椅子や家族等の写真、筆筒が持ち込まれ、職員は居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の残存能力を支援する介護を実施している。手や口を極力出さずに見守ったり、一緒に行くようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

グループホーム こすもす

作成日 平成21年11月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	災害時の地域の協力要請など、更なるサービスの質の向上に向けた運営推進会議の活用が望まれる。	質の向上にめけた運営推進会議の活用。	火災時の地域の協力要請について運営推進会議で意見交換し、質の向上を目指す話し合いを実施する。	6ヶ月
2	6	身体拘束防止に向けたマニュアルを作成するとともに、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為に関して職員で共有することが望まれる。	身体拘束について全職員で共有する。	身体拘束防止マニュアルを作成し具体的な行為に関して全職員で共有する。	出来ている。
3	23	思いや意向の把握がケアの出発点であることを再確認し、一人ひとりの思いや行為を記録し全職員で共有することを期待する。	全職員で記録し共有する。	朝のミーティングで一人ひとりの思いや行為を、再確認し全職員で記録し共有する。	できている。
4	26	介護計画の見直しは モニタリングや評価結果に基づいて、現状に即した内容で実施することを期待する。	介護計画の見直し。	モニタリングや評価結果を見直し、現状に即した介護計画を作成する。	3ヶ月
5	33	重度化や終末期のケアの実践に向け利用者や家族等と話し合い、方針を共有して関係者と支援に取り組むことを期待する。	重度かした場合や終末期のあり方について、家族と話し合いを行う。	早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、方針を共有し関係者と支援に取り組んでいく。	1年。
6	35	訓練で得られた課題を記録し、改善に向けた取り組みが望まれる。 運営推進会議などを通して火災訓練に地域の人々の参加を呼びかけるとともに、関連施設を緊急時の連絡体制を整備することが望まれる。	地域の人々の参加の協力と連絡体制の強化。	地域の消防を交え、訓練で得られた課題を記録し、改善に向けた取り組み、関連施設との協力体制を築き質の向上を目指す。	6ヶ月。
7	45	入浴回数や時間帯など利用者の希望にそった入浴支援を職員で話し合うことが望まれる。	希望にそった入浴支援を行う。	利用者の希望や健康状態を確認し、入浴を楽しめるよう職員同士で話し合い検討していく。	検討中。
8	52	家庭的な雰囲気やプライバシー確保という観点で、男性用トイレと廊下との仕切りに関する話し合いを行い、改善することが望まれる。	プライバシーの保護。	居心地よく過ごせるよう、男性用トイレとの廊下との仕切りの改善について話し合いを行っていく。	検討中。

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。